

令和3年度第1回神戸市の国民健康保険事業の運営に関する協議会

1. 日 時 令和3年8月19日（木）午後1時30分～午後2時31分

2. 場 所 スペースアルファ三宮 特大会議室

3. 出席委員 神戸市の国民健康保険事業の運営に関する協議会委員
（敬称略 23名中20名出席）

公益代表	軒原委員、上畠委員、足立会長、 上村会長代理、河端委員、奥原委員
保険医・保険薬剤師代表	置塩委員、白委員、村岡委員、中村委員、 安井委員、西尾委員、伊藤委員
被保険者代表	中島委員、高委員、樋口委員、高田委員、 村木委員
被用者保険等保険者代表 神戸市（事務局）	多田委員、戸梶委員 上田福祉局副局長、 増田国保年金医療課長、 坂保健事業担当課長

I 令和2年度 神戸市国民健康保険事業について

●事務局 資料説明

（質問等）

○委員

6ページの保険給付のところ、1人当たりレセプト件数は減少したが、レセプト1件当たりの医療費は増加傾向にあると説明があったが、これはこういった背景によるものなのか。

●事務局

被保険者数が減少傾向にあるため、全体の給付費としては下がっている。令和2年度については、外来等で通院される方や入院についても、新型コロナウイルス感染症の影響により受診控えが発生した。一方で、重度の方が割と受診されたという傾向があり、1件当たりの医療費については、若干増加している。

○委員

令和2年度の受診控えにより重大な疾患を見落とししていた等の影響で、医療費が増加してしまうのではないかと懸念されている。

●事務局

令和3年度については、まだデータが出てきておらず、また、細かい疾患で医療費がどう変わっていったかという分析もできていないので、何とも申し上げることができない。

○委員

1点目は、今後の1人当たり医療費の動きについて、どのように予測されているか。予算編成時に重要になってくると思うので、教えていただきたい。

2点目は、参考資料の1ページ目にある歳入の状況について、繰入金の備考欄に「基金繰入金」とあるが、この基金とはどの基金のことか。

3点目は、参考資料にある歳入合計と歳出合計の決算の差が約20億円あるが、結構大きい金額なので、正常な数値なのか伺いたい。

4点目は、歳入の保険料の予算と決算を見ると、約55億円の差があるが、予算編成時の数字の見積もりをどのようにされているか教えていただきたい。

●事務局

基金繰入金の基金については、国保の剰余金等が発生した場合に積み立てていく基金のため、基本、国保事業の中での基金である。

決算で約20億円の黒字があるという点については、被保険者数が減少傾向である前提で見込んでいたが、結果を見ると、被保険者数がそれほど減らなかった。後期高齢者医療に流れる一方で、新たに入ってくる世代が少ないという見込みだったが、コロナの影響等で会社を辞め、国保に加入された方が想定よりも多かったというケースが考えられる。そういった原因により、当初の予想よりも被保険者数が減らず、その分の保険料が入ってきたため大きく乖離した。ただ、これは純粋な黒字ではなく、国からいただく交付金の返還金も含まれているため、実際の決算ではもう少し下がる。

保険料の予算と決算の乖離という部分では、国の財政支援で行っている新型コロナ対策の保険料減免について、国から10分の10の財政支援があり、我々国保としては適用者が多いと想定し、入ってくる保険料は少ないという見込みで予算額を立てていたが、実際は想定ほど適用者がおらず、その分実額として保険料が入ってきたため、これだけの乖離が出ている状況である。

医療費の見込みについては、非常に難しいところで、コロナ禍から社会情勢が徐々に回復

していくということで、受診控えが解消されつつあるため、再び増加傾向に転じるだろうというふうに見ている。

●事務局

先ほどの受診控えの件について、昨年度の外来の状況だと、未就学児で約30%、高齢者で約3%医療費が減少しており、大きく受診控えが見られたのは、未就学児だった。

1人当たりの1年間に受診される医療機関の件数は、未就学児については、1年間約8件だったのが令和2年度は約5件に減っており、そこが非常に大きいという傾向にある。

前期高齢者については、年間12件から11件に減っており、恐らく緊急事態宣言の間、1カ月受診を控えられていたので、大きく医療に影響があったというのではないと思う。

特定健診の昨年度の結果は、それほど影響が出ていなかった。今年度、また特定健診の結果などを分析し、以前と比べてどのように影響が出ているのか見ていきたい。

○委員

12ページの特定保健指導の実施状況について、令和元年度は実施率が14.1%ということで前年度は上回ったようだが、兵庫県市町平均の26.6%と比較すると、神戸市は少し少ない気がするが、神戸市でいう、大都市における課題みたいなものがあるのかどうかお伺いしたい。

もう一点、13ページの表に、積極的支援と動機付け支援の数値が出ているが、こちらの兵庫県市町平均等がわかればお伺いしたい。

●事務局

特定保健指導の実施率は年々上がっており、セット健診の特定健診受診率が約80%であることが大きく引っ張ってくれている。集団健診のほうは、セット健診と合わせて実施率を上げているが、個別の医療機関での実施率が49%と低いところが原因になっており、医師会の先生にも協力を依頼している。県下ではまだまだ届いていない状況のため、結果を分析し工夫していきたいと思っている。

○委員

14ページのICTを活用した特定保健指導の実施について、昨今、三密を控えるということで、行政でICTを利用したアプリを結構取り入れられているが、これは全然応募者がなかったということは、対象年齢にもよるとは思うが、ICTに対する考え方はどうなのか。

●事務局

まず「MY CONDITION KOBE」を登録した上で、ICTの保健指導を活用していただくことになるが、「MY CONDITION KOBE」の登録が非常に煩雑で、手間がかかるため、なかなか

か利用に結びつかなかったのではないかと考えている。

○委員

保険料の未納対策として、9ページにいろんな取り組みが書かれているが、滞納額の推移はどういうふうになっているか。

●事務局

ここ数年収納率としては上がってきているが、毎年、年度末に集中して実施していた収納対策を、元年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず、一番収納を確保するところでできなかったために大きく下がってしまった。2年度の収納率は、コロナ前の収納率よりも若干上回り、0.75ポイント上昇しているので、少しずつ上昇傾向になってきていると考えている。引き続き収納額が増えるような形で取り組んでいきたい。

○委員

10ページの医療費の適正化の(2)柔道整復及び鍼灸あん摩・マッサージ療養費申請の全件点検の実施で、令和2年度の柔道整復は195件実施とあるが、令和元年度の15件と大きく乖離している。1年間で15件というのは、少なすぎると思うが、令和2年度と元年度で具体的にどういうところが変わったか、教えていただきたい。

●事務局

もともと柔道整復のほうは、施術者に返戻する場合に、返戻の同意がないと返戻することができず、令和元年度は、なかなか返戻について同意いただけなかったというところがある。

令和2年度は、同意いただかないと返戻はできないが、療養費の申請書の書き方を、もう少しこうしてほしいので、一旦返させていただきます、というように返戻を実施させていただいた。

○委員

ということは、195件返戻しても、大半は手直しされてまた出てくるということか。

●事務局

お見込みのとおりである。